

大学発アーバンイノベーション神戸 研究成果報告書

令和5年5月18日

区分	一般助成型	
研究分野	経営学	
研究期間	2021年度～2022年度	
研究代表者	氏名	山下 紗矢佳
	大学等	武庫川女子大学
交付決定額(研究期間全体)	2,750,000円	

○研究成果の概要（400字以内）

神戸市における人口減少・若者の県外流出に関する地域課題に着目する。その要因のひとつとして、市内の企業とりわけ中小企業に対して「働く場」としての認知度が若者を中心に低いことが考えられる。それは、本来若い世代が求めている企業情報を企業側が発信できていないためと考える。特に経営資源の乏しい中小企業では、本来自社の求める人材像が不明確なまま（あるいは思い込みのまま）採用活動を実施するため、人材の獲得・定着が難しいケースが少なくない。そこで本研究では、中小企業における採用力向上を目的とした「KOBE 採用イノベーションスクール」のプログラムの開発・検証をおこなう。なお、ここでは「採用力」を「自社の採用環境を踏まえ、効果のある採用手法やインターンシップを中小企業が自ら開発し実施する力」と定義し、中小企業がセミナー後も主体的に各社の採用活動を検討できるようなプログラムの構築を目指す。

○研究成果の学術的意義や社会的意義（200字以内）

中小企業研究においては中小企業が主体的・戦略的に人材を確保・育成していくプロセスの解明に迫る研究は少ない。企業側の視点でみると、日本企業は企業活動における採用活動の優先度が低く、人材の採用が相対的に困難な中小企業では、採用活動の見直しの必要性を感じていたとしても、自社の経営課題と認識される度合いが低いことは明らかである。この点に着目した本研究は、学術的意義や社会的意義が高いものとする。

1. 研究開始当初の背景

本研究は、2018年から富山大学地域連携推進機構がCOC+事業の一環として実施した「採用イノベーションスクール」のノウハウ・技術移転の試みからスタートした。富山大学ではS評価を得ていることから、このノウハウを武庫川女子大学経営学部に移転し、神戸の地域性に即した中小企業の課題解決に資するプロジェクトを開発することに挑戦した。また単に知の移転のみならず、本学の強みを活かした女性や文系雇用の創出を加えた実証実験にしようと考えた。

2. 研究の目的

中小企業に直接アプローチをし、採用活動で抱える課題等を確認しながら、中小企業向けの採用力向上プログラム開発をする。とりわけ、採用活動における「募集」段階での採用候補者集団の形成に焦点を当てる。中小企業が自社の魅力を再考し、自社の求める人材に対して自社の情報を伝え、採用候補者集団を形成していく、こうした一連の流れを自社で実践できるようなプログラムの開発を目指す。

3. 研究の方法

中小企業の採用力向上プログラムを開発するにあたり、アクションリサーチの手法を活用する。研究代

表者及び研究協力者やプログラムで講師をする実践者らが同等の立場で研究に参加し、課題設定、計画の作成・実施、評価の全プロセスにおいて共に意思決定を共有しながら進めるミューチュアルアプローチに基づくアクションリサーチを取り入れた。

4. 研究成果

(論文発表・学会発表・図書等)

【雑誌論文】

- ・ 山下紗矢佳 (2023 年 1 月)「中小企業向けの採用力強化プログラムの開発と有効性の検証に関する研究」『地域と社会』第 25 号, pp.55-67.
- ・ 山下紗矢佳 (2023 年 3 月)「コミュニケーションの力を活用した企業努力のあり方を考える」『中小商工業研究所報』No.27, pp.2-4.

【学会発表】

- ・ 「コロナ禍と中小企業の採用：『KOBE 採用イノベーションスクール』の実施からみる成果と課題」日本中小企業学会西部部会 (於大阪商業大学), 2022 年 7 月 23 日.
- ・ 「コロナ禍と中小企業の採用」日本中小企業学第 42 年全国大会 (於東洋大学), 2022 年 9 月 25 日.

【図書】

- ・ 山下紗矢佳 (2023)「コロナ禍と中小企業の採用：『KOBE 採用イノベーションスクール』の実施からみる成果と課題」日本中小企業学会編『日本中小企業学会論集 42』同友館. (査読あり) (予定)

<引用文献>

※大学発アーバンイノベーション神戸による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、神戸市の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。